鄭蝦榮, 松島格也, & 小林潔司. (2012). アイデンティティと過疎中山間地域におけるおつきあい行動-日南町を事例に. *土木学会論文集 D3 (土木計画学)*, *68*(5), I\_499-I\_511.

　アイデンティティは、地域の維持・発展に欠かせない重要な資源だ。アイデンティティが人々に地域の誇りや愛着を持たせ、地域の人たちにとって共に生きがいのある生活空間を作り出すための様々な活動を促進する役割を果たすと言う期待が込められている。その地域アイデンティティについて考察を深める。日本の中山間地域には豊富な天然資源や地域固有の伝統・文化が残っている。道路や建物など生活環境は少し不便でも、一緒にゆったりした時を楽しむ家族や友達がいて、昔からの伝統や生活様式を継承し共に生きがいのある生活空間を作り出す地域活動を続けている。本論文ではアイデンティティに対するお付き合い行動の働きを考察するために、過疎・中山間地域を代表する鳥取県日野郡日南町においてお付き合い調査を実施した。調査の結果アイデンティティが地域活動や地域への愛着や誇りを向上させることが分かった。またお付き合い行動のタイプでで、アイデンティティに一番大きな影響を与えるのは祭、一番影響力が低いのは道路清掃ボランティアや農産・産業復興のようなお付き合い行動だ。ここからアイデンティティが強制的なお付き合いよりは自発的なお付き合いをより促進することがわかる。

　お付き合い行動をより積極的に行うことによって、自分と近隣の人に相応しい環境・生活様式を生み出し、よりたくさんの人々の参加を促進することを明らかにした。例えば、農林業に従事する人が多い地域では農林業を支援する政策があれば、安心して長く町に住み続けられる。お付き合い行動に積極的に取り組む、地域を復興させるといった一連の整合した行為をとるだろう。

　本研究では、地域への愛着・誇りがアイデンティティの形成に影響を及ぼすものとして、大きく地域との繋がりと地域の人との繋がりに区分して説明することができた。地域におけるお付き合い行動とそこに形成されるアイデンティティとの関係が明らかになっていて、より活発なお付き合い行動が中山間地域を活性化する可能性が示唆された。地域を活性化するために腸内の範囲だけではなく他の地域とのお付き合いも重要だ。さらに地域を活性化し、人口減少を防止するためには地域外の人との交流（お付き合い）を促す対策が必要だ。